

σταυρός

ストーロス

知っておきたいキリスト教のことば (91)

十字架

じゅうじか

街中を歩いていると、十字架のネックレスや十字架をデザインしたTシャツを身につけている人を見受けられます。しかしもともと、十字架は古代における最も残酷な処刑方法でした。

ほぼ裸で木につけられることは死刑囚にとって屈辱的なことであり、また死への時間も長くかかったので、大きな苦痛が与えられたそうです。

イエス様は約 2000 年前、十字架によって処刑されました。栄光の王であるはずのキリストが、このような死に方をしたということは、ユダヤの人たちにとっては大きな躓きとなります。また多くの人たちにとっても、目を背けざるを得ない出来事でした。

ところがパウロは、人間はイエス様の十字架によらなければ、救いには与ることができないと言います。イエス様が十字架によって流された血が、わたしたちの罪を贖う供え物として、神さまにささげられています。そしてその血によって、わたしたちは罪の鎖から解放され、神さまの前に再び立つことができるのです。

わたしたちはイエス様の十字架によって新たにされ、新たな者として生かされています。ローマの信徒への手紙に、パウロはこのように書きます。

「わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。」(ローマの信徒への手紙 6 章 6 節)

さらにイエス様は、「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」(マタイ 16:24)と命じられます。もはや十字架は処刑の道具ではなく、わたしたちの命のしるしとなっているのです。

次回は「十二弟子」です。お楽しみに。



「正教会のイコン」
クレタのセオファニス
(16 世紀)

その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。

(コロサイの信徒への手紙 1 章 20 節)

